

ホスピタルストリート

Hospital Street 2023



患者さんを守るために

いざというとき！に備えて

医療センターの秋の防災訓練を、9月16日土曜日に実施しました。今回は火災発生を想定し、主に1階外来と2階病棟で患者さんの避難誘導を中心としたシナリオ型の演習を行いました。いざというとき、職員は自衛消防隊を組織し、患者さんの安全を守ります。訓練では自衛消防隊として活動する側と患者役を入れ替えながら、消防署の小見川分署職員にも立ち合っただき、各班の初動対応を確認しました。病院内の消防用設備も活用しつつ、職員ができることを迅速に行い、安全を確保する訓練を今後も継続していきます。

今回は、泌尿器科、耳鼻いんこう科、皮膚科と、医師の診療をサポートする医師事務作業補助者を紹介いたします。

泌尿器科



病院連携による適切な加療

医学博士

大西 哲郎

泌尿器科専門医

泌尿器科は、尿路である腎、尿管、膀胱、尿道の疾患及び男性生殖器である精巣、前立腺の他、腎の上方にある副腎疾患の診療を行います。

泌尿器科に受診される患者さんの約7割は男性で、約3割が女性です。平均受診年齢は78歳と高齢の患者さんが多い特徴があります。前立腺肥大症、前立腺癌、尿路感染症などの疾患が多く、特に日本人男性の最も頻度の高い悪性腫瘍である前立腺癌に関しては、旭中央病院の泌尿器科等との連携で適切な加療、および経過観察を行っています。女性では男性と同様に排尿障害を中心とした下部尿路症状の管理治療を行っており、膀胱内留置カテーテルの管理も多く行っています。(担当 水・木曜日)



排尿症状があれば気軽に受診を

医学博士

安藤 敬佑

泌尿器科専門医

泌尿器科では、主に腎癌、膀胱癌、前立腺癌などの悪性腫瘍や尿路結石などの診断を行い、手術可能な医療施設への橋渡しを行っています。外来診療のメインは排尿症状ですが、高齢化に伴い排尿障害の頻度は増えており、尿意切迫感を主症状とする過活動膀胱は高血圧より罹患率が高いとされています。尿に関連した様々な症状は日々皆さんにつきまとい、QOL(生活の質)を著しく損ないます。

血尿や排尿時痛はもちろんのこと、尿が細くなった、時間がかかる、おなかに力をいれないと排尿できないなどの症状があれば気軽に泌尿器科外来へお越しください。(担当 火曜日)



耳鼻いんこう科



みみ・はな・のど・くびの疾患を幅広く診療

医学博士

米倉 修二

耳鼻咽喉科専門医・指導医
アレルギー専門医・指導医

耳鼻いんこう科では、聴覚、嗅覚、味覚、発声、呼吸、食事など生活に彩りを与える、あるいは生きていく上で不可欠な機能を扱っています。週3日(火、水、金の午前中)で診療しており、子供からお年寄りまで、様々な疾患に対応いたします。難聴では補聴器や身体障害者手帳申請の相談もすることができます。また、アレルギー性鼻炎に対しては、通常は飲み薬や点鼻薬での治療になりますが、希望する方には根本的な治療を目指す舌下免疫療法を行っています。舌がん、咽喉がん、喉頭がんなど悪性の疾患に関しては、当医療センターで治療をすることはできませんが、しっかり診断して治療可能な病院へご紹介させていただきます。

近隣には耳鼻いんこう科のクリニックが少なく、お困りの方も多いのではないのでしょうか。みみ、はな、のど、くびで気になる症状がある方は、どうぞご相談ください。



皮膚科



皮膚症状があれば気軽に相談を

医学博士
松澤 高光

皮膚科専門医

皮膚疾患は子供から大人まで全年齢層の患者さんにみられます。皮膚のかゆみ、いたみ、赤み、皮膚むけ、キズ、水ぶくれ、脱毛、できものなど多彩な皮膚症状があります。病気について知りたい、治療をして症状を良くしたい、原因を可能な限り知りたいなど受診希望があれば気軽に受診を検討してください。

主に皮膚の感染症（水虫、水イボ、带状疱疹、丹毒、蜂窩織炎など）、薬剤アレルギーによる皮疹（薬疹）、荷重部のキズ（褥瘡）、皮膚色が白くなる（尋常性白斑）、自分の免疫が自分の皮膚や粘膜を攻撃しておこる水ぶくれ症状（天疱瘡、類天疱瘡）、魚のうろこの様なカサカサした赤い皮疹が多発（尋常性乾癬）、皮膚のできもの（良性腫瘍、皮膚癌）の診断・治療などを行っています。

組織検査、手術、副作用のリスクの高い治療を必要とする場合などは、他の病院などへご紹介しています。



外来診療のサポート

医師事務作業補助とは

医師事務作業補助者は、医師の指示のもとで電子カルテの入力代行や診断書などの文書作成と医師の事務作業を補助することが主な業務です。医師事務作業補助者がいることで、多忙な医師の事務作業の負担が軽減され、医師が患者さんと向き合い、診療に専念できる環境が確保できるため、医療の質の向上につながります。



医師をサポートして質の高い医療の提供に貢献

医事課 診療支援班

山辺 佳子

医師事務作業補助者は、医師の負担を軽減し、診療を効率化する「縁の下での力持ち」ともいえるような職業だと感じています。医師のサポートを行うことで、医師が質の高い医療を患者さんへ提供し、患者さんに安心して診療を受けていただくための架け橋となれるよう心掛けています。

診療情報を正確に把握するために専門知識の習得と技術向上を図り、医師や医療スタッフ、そして病院の医療に貢献できるよう日々の研鑽に努めています。



医事課 医師事務作業補助スタッフ



総合受付



お知らせ

●外来受診について

当医療センターは、かかりつけ医機能も担っているため紹介状がなくても受診でき、また、診療所や他病院からの紹介状をお持ちいただいても受診もできます。病状によっては、より専門的な治療が受けられる病院へご紹介しています。

脊椎脊髄疾患においてはセカンドオピニオンを実施し、各種予防接種や健康診断なども積極的に行っています。



●外来診察時のお呼び出し方法が変わりました

10月2日から、外来診察のお呼び出しを受付時の「お呼び出し番号」で行っています。「お呼び出し番号」の呼び出しで気が付かれない場合は、名前による呼び出しを行います。また、診察順を3人まで外来待合モニタに表示し、順番待ちの目安にいただけるようにしました。



新着情報

◆患者満足度調査を実施

(患者サービス向上委員会)

11月に患者満足度調査を実施しています。利用される皆様からのご意見やご要望を把握し、今後の医療サービスの改善や医療の質の向上に取り組んでまいりたいと思いますので、ご協力をお願いします。



職員紹介(常勤医師)

内科専攻医

稲葉 航平

10月から香取おみがわ医療センターに着任しました稲葉航平です。専門は消化器内科で、前任の松本先生と同様に、胃カメラや大腸カメラも行います。最近消化器の検査をしていないな、気になるなという方は気軽に外来でご相談ください。まだまだ若輩者ですが、精一杯努めてまいりますのでよろしくお願いいたします。



◆第61回全国自治体病院学会、第63回国保地域医療学会で研究発表を行いました。

第61回全国自治体病院学会

8月31日～9月1日(札幌コンベンションセンター)

「病院の活性化から始めた地方独立行政法人1年目」

～広報活動による職員のモチベーション向上と意識改革～



経営企画室 瀧口 広



第63回国保地域医療学会

10月6日～7日(福井県民ホール)

「Catphan,AutoQAを利用したCT撮影条件見直しのための基礎検討」

診療放射線技師 浅倉 巧



地方独立行政法人
香取おみがわ医療センター

TEL 0478-82-3161 (代表) FAX 0478-83-3032
〒289-0332 千葉県香取市南原地新田438番地1

休診日 土曜・日曜・祝日・年末年始
診療受付 平日8時から(予約が必要な診療もあります)
診療科により診療時間は異なりますので、詳しくは
ホームページ等でご確認ください。
<http://www.hospital.omigawa.chiba.jp/>

